

温熱化学療法で良好な経過を継続中の去勢抵抗性前立腺癌 (CRPC) の 1 例 (第 2 報)

鶴田病院 泌尿器科 川畑幸嗣
臨床工学科 岡崎優作、奥田みどり、中原祥吾
原田美砂子、中村健二

【目的】 CRPC 多発骨転移症例に対して低用量ドセタキセル (DOC 40 or 60mg/body/4W) とデノスマブ (Dmab 120mg/4W) の 2W 毎交互療法と温熱療法 (HT/W) を併用し、良好な経過を長期継続中の 1 例を紹介する。【症例】 67 歳、CRPC 多発骨転移 (GS9, cT3aN1M1b, stageD2)。【方法】 LHRH アゴニスト 3M 毎を継続しながら、上記化学療法に骨盤部 HT/W 腹臥位 45 分を併用。【結果】 H26/10/10 から H28/07/12 までに HT 85 回、DOC60mg 15 回、DOC40mg 7 回、Dmab120 mg 14 回 (額骨壊死で一時中断)、ゴセレリン 10.8mg 6 回施行。PSA は治療前 981.0 から 4M 後に 2.000 以下に低下し 16M 以後 0.001 以下を継続中。PSA-PFS は現在 21M。骨シンチでは治療前 BSI (%) 4.16 が 19M 後に 0.45 に減少。HS (n) も 43 から 4 に減少して著効。ADL も著明改善し、PS 3 が 3M 後に歩行退院となり、5M 後には杖なし歩行 3 km 可能となる。右下肺転移疑い病変もあったが消失。DOC による有害事象は 60mg で Grade1 の白血球減少と悪心便秘を認めたが、40mg では認めなかった。【考察】 年齢や ALP, LDH, Hb, 等の予後因子が良い上に、HT による抗癌剤取り込み量増加と薬剤耐性予防効果で、低用量 DOC でも効果が長期継続していると推測された。【結語】 CRPC 多発骨転移症例に対する低用量 DOC 化学療法と HT 併用療法の有用性と安全性が示唆された。